

2024年 9月

～第103号～

資料館の来館者が30万人を達成しました

平成24年4月29日(昭和の日)の開館から3,737日目の本年8月4日(日)にイタイタイ病資料館は30万人目の来館者を迎えました。これまでにご来館いただきました県内をはじめ国内外からの幅広い世代の皆様に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

これからも、多くの方々のご来館をお待ちしております。

夏休み企画『夏休み自由研究講座』・『日帰りバスツアー』を開催しました

イタイタイ病資料館では、夏休みイベントとして、7月26日(金)に『イタイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー』を、8月3日(土)に『夏休み自由研究講座～イタイタイ病の学習と川の水質調査～』を開催しました。

『イタイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー』には、県内外の小学校4～6年生の児童と、その保護者6組13名が参加され、イタイタイ病に関係のある場所を巡りながら公害病を克服してきた歴史を学習しました。



～開講式～



～展示室解説～

参加者は、展示室での解説を聴いてから、バスに乗り岐阜県飛騨市にある神岡鉱業株式会社に向けて出発しました。

鹿間工場内では、排水管理センターやシクナー(凝集沈殿装置)、和佐保地区では鉱石のくずである廃さいを溜めておく、たい積場を見学し「環境安全最優先」の方針の下に工場からの排水管理が徹底されていることを見てきました。

午後からは、富山市大沢野グラウンド駐車場を出発点とし、神通川から取水されている牛ヶ首用水上流をバスで回り、カドミウム汚染から復元された地域を見学しました。車中では、平岡孝進清流会館事務局長の説明を聴き、安全で良質な米作りのための努力と工夫を学びました。



～平岡事務局長による説明～

最後に、被害者団体の拠点施設「清流会館」で、江添良作イタイタイ病対策協議会会長の講話を聴き、病に苦しめられた祖母や家族の当時の様子など病気の実態とその後の患者救済、土壌復元の歩みを教わりました。



～江添会長による講話～

猛暑の中でしたが、元気に資料館へ戻り、解散式でバスツアーを終えました。

『夏休み自由研究講座～イタイタイ病の学習と川の水質調査～』には、県内の小学校3～6年生の5組11名の親子が参加されました。

ガイダンス映像を視聴した後、資料館スタッフの解説を聴きながら展示室を見学しました。

展示室では、神通川流域の農村に病気が発生した時期や要因を教わり、病気に苦しむ患者と家族の様子を再現したジオラマを見て回りました。さらに、地元の萩野病院の萩野昇医師たち

後半の川の水質を調べる実験では、薬学博士の朴木英治氏に「紫キャベツの色水遊び」と題して紫キャベツから作った色水の色を変える演示実験をしていただきました。この実験では、色水が酸性・中性・アルカリ性の時にそれぞれどんな色に変わるのかを、全て家庭で用意できる食材を用いて確認しました。



その後、富山市内を流れるいたち川の上流から下流までの4か所の水質を調べる実験を各自実施しました。その際に用いた、汚れ具合を測るためのパックテスト COD の取り扱いには苦労しながらも、参加者は真剣に実験に取り組み、生活排水が川の環境に与える影響を学びました。



『四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～』を開催します

(URL : <https://www.pref.toyama.jp/1291/kura-shi/kenkou/iryou/1291/index.html>)